

## P44 すべての道路利用者が安全・安心かつ円滑に移動できる環境づくり(防災・安全)

## 計画概要

◆計画期間 平成 24 年度 ~ 平成 28 年度

## ◆計画の目標

東海市道は、幹線道路と一体となって地域に密着した道路網を形成し、地域の連携や振興に大きく貢献する役割を担っている。

しかし、歩道設置等の安全対策や、道路設備等の老朽化に対する対応はまだまだ十分な状況では無く、道路設備の整備は緊急の課題となっている。

このため、【安全】「歩行者、自転車の安全確保のための自歩道設置を中心とした交通安全施設整備の推進」・【安心】「災害に対して安心して利用できる快適な道路の整備」・【維持】「老朽化した道路を修繕して安全で安心して通行できる道路の維持」を、関連するソフト事業等を組み合わせて行うことにより、地域の特性に即した安全で快適な生活道路の整備を目指す。

## ◆計画の成果目標(定量的指標)

指標①:【安全】市道において歩道設置が十分だと思っている人の増加

指標②:【安心】市道における橋梁耐震率の増加

指標③:【維持】老朽化した市道の修繕率の増加

# 評価内容

## ◆交付対象事業の進捗状況

交付対象事業	事業費※	事業の実施状況	進捗率※
A 道路事業	875百万円	(1)横須賀加木屋線、新屋敷3号線の歩道設置の完了 渡内川右岸4号線始め5路線の自転車歩行者分離 整備の一部完了 (2)平子7号線、大池北線、上野台本通り線、元浜線、 名和養父線、南柴田2号線の舗装修繕の完了 (3)樋橋、大田新橋の耐震補強整備の完了 (4)東海橋、宮ノ脇橋、大田新橋の修繕の完了 加家高架橋の修繕の一部完了 (5)宮川横断歩道橋の修繕の完了 (6)中大廻間線の道路拡幅の一部完了 (7)道路ストック総点検、橋梁点検の完了 (8)向山南北線始め3路線の交差点改良の一部完了 ※残路線については早期整備完了を目指す	39%
B 関連社会資本整備事業	- 百万円		- %
C 効果促進事業	- 百万円		- %
合 計	875百万円	計画上の全体事業費 2, 254百万円	39%

※事業費は実績額

※進捗率(%)は各事業の計画に対する実施割合【事業費ベース】

※(参考) 全体事業費(実績ベース):1, 389百万円、実施事業費:875百万円、進捗率:63%

## ◆事業の実施状況

事業区分	要素となる事業名	事業内容	事業実施状況
	(事業箇所)	(延長・面積等)	
道路事業	(1)横須賀加木屋線	歩道設置 L=250m	◎
	(他)渡内川右岸4号線始め5路線	歩道設置 L=577m	◎
	(1)平子7号線	舗装補修 L=440m	◎
	(1)大池北線	舗装補修 L=710m	◎
	(1)上野台本通り線	舗装補修 L=540m	◎
	(1)元浜線	舗装補修 L=740m	◎
	(1)名和養父線(樋橋)	橋梁修繕 L=35m	○
	(1)大池北線(宮川横断歩道橋)	橋梁修繕 L=39m	◎
	(2)加木屋大池線	歩道設置 L=110m	○
	(他)中大廻間線	道路拡幅 L=250m	○
	(他)新屋敷3号線	歩道設置 L=93m	◎
	道路ストック総点検	点検 L=85,000m他	◎
	(1)名和養父線 外3路線	舗装修繕 L=1,870m	○
	東海橋 外9橋	橋梁修繕 N=10橋	○
	橋梁長寿命化修繕計画	点検 N=11橋	◎
	(1)向山南北線始め3路線	交差点改良 L=1039m	○
	(1)一番畑寝覚線	交差点改良 L=200m	○
	(1)大池北線(加家高架橋)	橋梁修繕 L=153m	○
◎:計画期間中に完成 ○:計画期間終了後に事業継続中			

## ◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

### I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況 (別紙1)

別紙参照

## Ⅱ 定量的指標の達成状況

### 指標①(【安全】歩道の設置が不十分だと思う人の割合)

平成21年度に実施したアンケート結果、71%を基準値にしている(東海市まちづくり市民委員会資料)  
(「歩道の設置が不十分だと思う人」/アンケート回答数)

当初現状値	71.0%	目標値と実績値に差が出た要因等	本計画に駅周辺など多くの市民が利用する箇所が含まれておらず、不特定多数の市民に「安心」・「安全」を実感させることができなかったため、最終目標値を達成できなかった。
最終目標値	61.0%		
最終実績値	67.6%		

### 指標②(【安心】地震発生時のライフラインを確保するための安全対策の割合)

平成21年度の橋梁耐震率の27%を基準値としている  
(必要な耐震対策済橋梁等(落橋防止)/緊急輸送路及び主要道路に係る橋梁等41箇所)

当初現状値	27.0%	目標値と実績値に差が出た要因等	国費が順調に配分されたことから、計画どおりに事業実施が見込めたため、最終目標値を達成することができた。 対策済橋梁数/全体橋梁数 16橋/41橋
最終目標値	39.0%		
最終実績値	39.0%		

### 指標③(【維持】修繕の緊急度の高い市道の修繕実施路線の割合)

平成24年度「道路維持修繕計画」における道路修繕の緊急度の高い7路線の修繕実施路線を基準としている  
(緊急に修繕が必要な路線の修繕実施路線数/緊急に修繕が必要な路線7路線)

当初現状値	20.0%	目標値と実績値に差が出た要因等	市の全体事業の中で優先度が見直されたことから、修繕計画に基づく舗装修繕が予定どおり実施できなかったため、最終目標値を達成できなかった。 修繕済路線数/修繕予定路線数 6路線/7路線
最終目標値	100.0%		
最終実績値	85.7%		

### Ⅲ 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況(必要に応じて記述)

橋梁長寿命化修繕計画に基づく、ひび割れ補修、舗裝修繕、塗装塗替えなどを行うことで、橋梁の延命化を図るとともに、一般交通の安全性を確保した。

[大池北線(宮川横断歩道橋)、東海橋外9橋(東海橋、宮ノ脇橋、大田新橋)]

#### ◆ 今後の方針

指標①(【安全】歩道の設置が不十分だと思う人の割合)

・残事業箇所の事業進捗を図るとともに、駅周辺の歩道設置等による交通安全整備を進め、歩行者等が安全に通行できる道路を確保する。

指標②(【安心】地震発生時のライフラインを確保するための安全対策の割合)

・緊急輸送道路に架かる橋梁の耐震補強は、概ね対策が進んできたため、今後は、橋梁長寿命化修繕と合わせた耐震化を行い、地震時のライフラインを確保する。

指標③(【維持】修繕の緊急度の高い市道の修繕実施路線の割合)

・整備計画に沿った予算の確保に努め、順次舗裝修繕を行い、安全で快適な生活道路の推進を目指す。

#### ◆ 事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

東海市社会資本整備総合交付金評価委員会において評価を実施。

事後評価の実施時期

平成29年11月

公表の方法

縦覧及び、ホームページ掲載

((<http://www.city.tokai.aichi.jp/16367.htm>))

## 参考資料

### ◆定量的指標

成果目標	当初現況値	中間目標値	最終目標値
【安全】歩道の設置が不十分だと思う人の割合	71%	65%	61%
【安心】地震発生時のライフラインを確保するための安全対策の割合	27%	34%	39%
【維持】修繕の緊急度の高い市道の修繕実施路線の割合	20%	60%	100%

## 【基幹事業】

事業名:(1)横須賀加木屋線

工事概要:歩道設置 L=250m

事業箇所:東海市高横須賀町人鎌始め3地内

事業主体:東海市

事業効果:歩道を整備したことにより、歩行者等のすれ違いが容易にできるようになったため、安全対策が図られた。



## 【基幹事業】

事業名:(1)東海橋始め9橋(大田新橋)

工事概要:橋梁耐震補強(制震ダンパー設置) 橋長 L=62.5m

事業箇所:東海市大田町浜新田地内

事業主体:東海市

事業効果:幹線道路に架かる橋梁を耐震化したことで、大地震等の災害の際に一般交通並びに物資輸送等が可能となる路線を確保することができた。



## 【基幹事業】

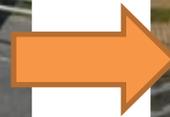
事業名:(1)平子7号線

工事概要:舗装修繕 L=440m

事業箇所:東海市加木屋町平子始め2地内

事業主体:東海市

事業効果:損傷が激しい舗装を修繕することで、安全で快適な生活道路の整備が図られた。



# 参考図面

